「HOUSE-ST1 マニュアル」正誤表と機能追加について　　平成 16 年 9 月

頁	位置	誤	正
41	下へ追加		２）④の受風圧面積計算を「座標入力」とした場合、⑦⑧の屋根勾配は主要な屋根勾配を入力します。
44	２）の下へ追加		材質リストは、あらかじめ登録された材質を含み 10 種類まで使用できます。
44	表 3.4 のめり込み長期許容応力度	No.1　2.9 No.2　2.4 No.3　1.9 No.4　1.9	No.1　3.3 No.2　2.86 No.3　2.2 No.4　2.2
50	表 3.6 の記号	番号 4　V 番号 5　T	番号 4　T 番号 5　V
52	表 3.7 の記号	番号 4　V 番号 5　T	番号 4　T 番号 5　V
57	はりの⑤の説明	「床の小ばり」、「小屋ばり」、「軒桁」、「床ばり・胴差」のいずれか	「はり」、「床の小ばり」、「小屋ばり」、「軒桁」、「床ばり・胴差」のいずれか
61	②の説明	火打ちばりがある場合は、火打ちばりによる床倍率を加算した床倍率を入力します。	火打ちばりを配置した場合は、火打ちばりによる床倍率を自動計算します。自動計算結果が実状と合わない場合は、火打ちばりを配置せず床倍率に加算して入力して下さい。（火打ちばりの種類等については P.44⑪～⑭を参照して下さい。）
78	「2.スパンﾋﾟｯﾁﾀﾞｲｱﾛｸﾞが表示される」2 行目	Ｙ方向に 10 スパン	Ｙ方向に 9 スパン
145	Ｎｏ.W460 の下へ追加		エラーメッセージ： Ｆ 461　□階　○○○軸　△△△軸 柱の細長比λが 150 を超えています。 説明： 柱の寸法等を確認して下さい。
150	図 5.1 の壁量計算ルート（左側）	偏心率≦0.15 の確認	偏心率≦0.3 の確認
153	表 5.3 のめり込み長期許容応力度	番号 1　2.9 番号 2　2.4 番号 3　1.9 番号 4　1.9	番号 1　3.3 番号 2　2.86 番号 3　2.2 番号 4　2.2
154	下から 6 行目	地震力算定には地震時積載荷重を	地震力算定には地震用積載荷重を
164	⑤	⑤水平構面の許容耐力の算定	⑤地震力の算定
168	ａ）のＫｉｊの説明	ｉ階ｊ通りの鉛直構面	ｉ階ｊ通りの鉛直構面剛性
170	③の曲げモーメントについて	Ｍ／ｆｂ・Ｚ≦1.0	Ｍ／（ｆｂ・Ｚ）≦1.0
171	表 5.11 へ追加		部位　：　はり 長期　：　250 長期（多雪区域）：250 積雪荷重短期扱い：250
171	④ｂ）曲げと軸力を受ける場合	Ｎ／ｆｋ・Ａ＋Ｍ／ｆｂ・Ｚ≦1.0	Ｎ／（ｆｋ・Ａ）＋Ｍ／（ｆｂ・Ｚ）≦1.0
173	ｂ）の曲げモーメントについて	Ｍ／ｆｂ・Ｚ≦1.0	Ｍ／（ｆｂ・Ｚ）≦1.0
173	ｂ）のせん断力に対して	1.5Ｑ／ｆｓ・Ａ≦1.0	1.5Ｑ／（ｆｓ・Ａ）≦1.0
176	ａ）のＤｆの説明	基礎の埋め込み深さ	基礎の根入れ深さ
177	ｂ）のせん断力について	Ｑａ＝ｆｓ・ｊ	Ｑａ＝ｆｓ・ｂ・ｊ
179	上から 3 行目	ｊ＝７／８（Ｄ－基礎かぶり厚さ）	ｊ＝７／８（Ｄ－ｄt）

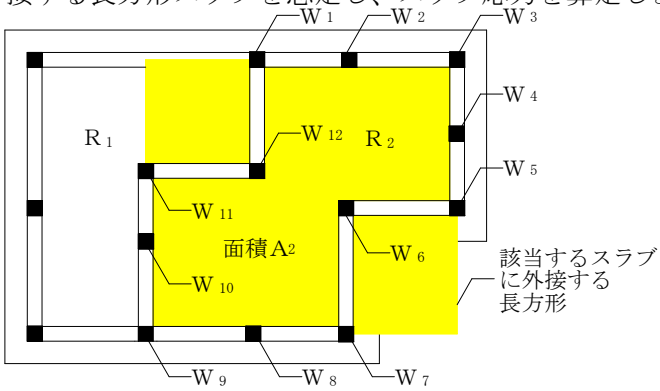
			Ｄ　：地中ばりせい(cm) ｄｔ：ｺﾝｸﾘｰﾄ縁から主筋の重心までの距離(cm) ｄｔ=(基礎かぶり厚さ)+(0.5ｘ主筋径+せん断補強筋径)ｘ1.1 ｄｔ≧７ｃｍ
179	下から５行目	主筋の長期許容引張応力度	主筋の短期許容引張応力度
180	ｂ）耐圧版の断面計算	ａ）で求めた接地圧が作用する	別紙の図Ⅰ
181	図 5.24	図 5.24 の図	別紙の図Ⅱ
185	①	耐力壁線間の距離≧8m 耐力壁線（筋かいを用いない壁）間の距離≧12m	耐力壁線間の距離≦8m 耐力壁線（筋かいを用いない壁）間の距離≦12m
188	分類の 3.8 の下へ追加		3.9　水平構面の仕様
189	細分の 6.1.6 の下へ追加		6.1.7　火打ちによる床倍率

■図Ⅰ

耐圧版の断面計算では、地中ばりで囲まれた範囲ごとに接地圧の計算を行います。図に示すように周囲の地中ばりにある柱の軸力を集計した総重量（隣接耐圧版がある場合は、それと重量を分配します）を該当耐圧版の面積で除して計算し、有効地耐力度と比較します。

スラブの端部が外壁面と接する場合は、外壁面と接する辺をピン支持とし、上記で求めた接地圧が作用するものとしてスラブの応力を下式より求めます。

長方形でない場合は外接する長方形スラブを想定し、スラブ応力を算定します。

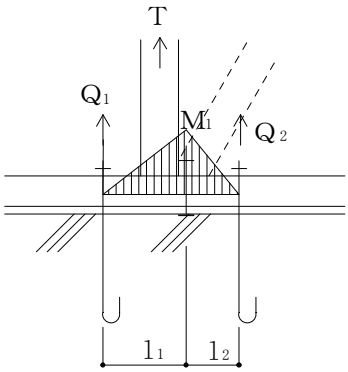


接地圧＝（W1+W2+・・・・+W12）／A2

W1～W12 は隣接スラブがあるときは分配した負担分

Ａ２＝地中ばりで囲まれた面積

■図Ⅱ



■下記の機能を各 Ver.にて追加しました。
Ver.2.0.0.5 において
入力
（１）伏図入力において、通り心が接近している場合に均等スパン表示できる機能。
（メニュー［表示］の［見かけ等スパン表示］にて利用できます。）
（２）構造計算の方針を直接入力できる機能。
（メニュー［入力］の［構造計算の方針］にて利用できます。）
（３）軸の挿入※3 のダイアログに挿入する位置などを表示する機能。
計算
（１）計算結果にＮＧとなる内容・部材があるかどうかをチェックできる機能。
（メニュー［計算］の［計算結果のチェック］にて利用できます。）
出力
（１）印刷時の伏図、フレーム図の数値等のフォントサイズを指定できる機能。
（メニュー［ファイル］の［印刷設定］にて利用できます。）
（２）印刷での先頭ページ数を指定できる機能。
（メニュー［ファイル］の［印刷設定］にて利用できます。）
（３）出力７．１．１　長期柱軸力の表と伏図それぞれを別々に印刷項目指定できる機能。
Ver.2.0.0.6 において
入力
（１）「見かけ等スパン表示」の ON／OFF 状態を保存できる機能。
出力
（１）出力の伏図、フレーム図において、通り数が多いと数値が重なり見えない場合があるため、均等スパンで印刷できる「等スパンで印刷」できる機能。
（メニュー［ファイル］の［印刷設定］において「等スパンで印刷」をチェックにて利用できます。）
（２）「配置データをＣＡＤファイルに保存する」場合において、各階伏図の名称、はり寸法記入、筋かい種類記入、管柱・通し柱・下階柱の区別を行なう機能。
（３）出力「7.1.2 水平力による軸力」において β 考慮の出力で β を出力する機能。
Ver.2.0.1.1 において
入力・計算
（１）基礎地中ばりの断面計算において、２階建て以下の場合にせん断補強筋のフックなしが計算できる機能。
（［基本データ］ダイアログの［断面計算］の［地中ばりせん断補強筋フック］にて選択できます。省略時は「フックあり」です。）
Ver.2.0.1.2 において
（１）丸太はりへの対応
はり配置データにおいて「せい」に０を入力するとはり断面計算にて丸太はりとして計算します。断面計算においては長方形断面はりとは、以下の違いがあります。
① 断面性能 I、A、Z を、はり幅の直径の円形断面として計算します。
② せん断力の検討において α を 4/3 で行います(長方形断面では 3/2)。
（２）屋根形状係数の直接入力
(［基本データ］ダイアログの［荷重条件］の右中程の「屋根形状係数」のチェックボックスにチェックを入れて入力します。省略時はチェックなし、すなわち屋根勾配による自動計算です。)

※3. 軸の挿入に関する操作は、メニュー[ヘルプ]→[トピックの検索]、「軸の編集」の「軸の挿入」を参照して下さい。また、複数の部材を同時に編集する操作については、メニュー[ヘルプ]→[トピックの検索]、「編集」の「複数の部材のプロパティ変更」を参照して下さい。